

舞台衣装

バレエ・リュス



平成25年度 服飾文化特別講演会

【主催】文化学園大学 文化ファッション研究機構

平成26年 **2月24日** (月)

16:30→18:00

(開場・受付開始 16:00)

入場無料・定員300名

文化学園大学新都心キャンパス

A館20階大ホール

【お申込み・お問合せ】文化学園大学 文化ファッション研究機構

TEL:03(3299)2094 E-mail:bfri@bunka.ac.jp

1909年にパリで鮮烈なデビューを果たしたロシア・バレエ団(バレエ・リュス)は、革新的なステージにより一世を風靡した伝説のバレエ団です。主宰者セルゲイ・ディアギレフ(1872-1929)の慧眼により、同バレエ団はニジンスキーをはじめとする伝説のバレエ・ダンサーや振付家に加え、20世紀を代表する作曲家ストラヴィンスキーら、数々の新しい才能を輩出しました。ロシアのエキゾティズムとして人気を集めたバレエ・リュスは、やがてピカソやマティス、コクトー、ブラック、ローランサン、シャネルら、当時パリで活躍していた前衛の若手アーティストを取り込み、新しいスタイルの「総合芸術」として、バレエだけでなく美術やファッションにも多大な衝撃を及ぼしました。本講演では、「バレエ・リュスと舞台衣装」をテーマにお話します。

講師

Yayoi Motohashi

国立新美術館主任研究員 本橋 弥生

『スキン+ボーンズ—1980年代以降の建築とファッション』(2007年、ロサンゼルス現代美術館との共催)、『アーティスト・ファイル 2008—現代の作家たち』(2008年)、『アーティスト・ファイル 2009—現代の作家たち』(2009年)、『大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧美術の400年』(2012年)、『カリフォルニア・デザイン 1930—1965 モダン・リビングの起源』(2013年、ロサンゼルス・カウンティ美術館との共催)、『魅惑のコスチューム: グレエ・リュス展』(2014年、TBS、オーストラリア国立美術館との共催)などファッションやデザイン、現代美術等の展覧会を担当。

写真: レオン・バクスト「青神」の衣装(《青神》より) 1912年頃 オーストラリア国立美術館蔵

Léon BAKST, Costume for the Blue God, from the Ballets Russes production of Le Dieu Bleu (The Blue God), c. 1912, National Gallery of Australia, Canberra

